

# 福祉フォーラム通信

Vol.2

発行日：2007年7月20日  
発行元：龍谷大学福祉フォーラム



## 【大友会長インタビュー】

4月から、新しく福祉フォーラム会長に就任された社会学部 大友信勝教授の研究室を訪問しました。そこで、世界遺産のアンコールワット（カンボジア）を背に、颯爽とジョギングする大友先生の写真を発見。多彩なご経験と広い視野をお持ちの様子がうかがえます。

—大友先生は、龍谷大学に来られて3年目ですね。龍谷大学の印象はいかがでしたか？

まず、圧倒されたのが、「建学の精神」ですね。4月初めの辞令式の時に拝見し、そのシンプルさと崇高さに感動しました。「平等・自立・内省・感謝・平和」という5つのキーワードとその深い意味を知り、「力」や「強さ」が良しとされ、ともすれば弱い立場の者が踏みにじられやすい今の時代に、「これは、すごい大学に来てしまった」と思いましたね。

そこで、出典は何かと気になり、歎異抄や教行信証の原典をはじめ、関連書籍を30冊ほど読みました。

—原典を読まれたのですか！それはなかなかできないことですね。

大友先生にとって、親鸞聖人はどのような存在ですか？

すぐれた哲学者であり、政治家であり、教育者ですね。『教行信証』は漢文で厳密に書かれた教典だし、一方で、大和ことばでわかりやすく庶民に向けて書かれた『和讃』があります。権力とつながり墮落した当時（鎌倉時代）の聖職者に異を唱え、身分の低い人々に安心を与えるような教えを広げていったわけです。

—この龍谷大学において、福祉フォーラムを展開する意義はどんなところにあると思われますか？

やはり建学の精神とつながるところで、「共生」の実態化を目指すことではないでしょうか。共生は、民主主義の思想が原点にあると思います。人びとが多様な文化を認め合い、連携・協働していく場にしたいですね。そのときに重要なのが、当事者がともに取り組むということです。したがって、当事者の持つ力をこれからもっと掘り起こし、力を合わせていく必要があると思います。

市場社会に対して、人間社会というものの基盤を強めていかなければと思います。すなわち、信頼関係や生活原理を大切にす社会です。福祉フォーラムの取り組み自体が、今の市場原理中心の社会に対するアンチテーゼになればいいと思います。

—大友先生のご専門や、今とくに関心を持たれているテーマについてお聞かせください。

福祉政策論です。ただ、政策論と方法論という単純に二分されたものではなく、現場で生活ニーズをしっかり受けとめ、施策の運用の視点から国や自治体の政策を変えていこうというスタンスです。

—アンコールワットを背にしたお写真が気になるのですが・・・

これは、国連の地域開発センターの仕事をしていた頃のもので、ベトナム、カンボジア、タイ北部などの貧困地域をまわり、救援物資の使われ方の確認や、国連としての役割を探る仕事をしていました。世界の貧困にふれる貴重な経験でした。

—その前後は、ずっと大学にお勤めだったのですか？

若い頃8年間は、秋田県庁の職員をしていました。福祉事務所で生活保護を担当し、保護率を県下で一位にしてしまうので有名でした。この仕事を通して勉強を重ね、公的扶助についての研究を発表しました。



大友先生ご自身も、すぐれた哲学者であり、政治家であり、教育者であるということが、大変よくわかりました。これからの福祉フォーラムがますますおもしろくなりそうです。

【インタビュアー 社会学部教授 筒井のり子】

## ●オータム・フォーラム開催のご案内 テーマ：「いのちと尊厳」

日時：2007年9月8日（土）13:00～19:30

9日（日）9:30～17:00

場所：龍谷大学 瀬田キャンパス

<1日目> 映画&講演会+トークショー、交流会

羽田澄子監督「終わりよければすべてよし」を上映、その後、羽田監督にご講演いただきます。

<2日目> 分科会&シンポジウム

分科会終了後、龍谷大学客員教授・長野県神宮寺住職 高橋卓志さんをコーディネーターに迎え、川田龍平さん（予定）、上田紀行さんとともにシンポジウムを行います。

詳細は決定次第、追ってホームページ・ちらし等でお知らせいたします。ご期待ください！

# 3月に「子ども」をテーマにフォーラム開催

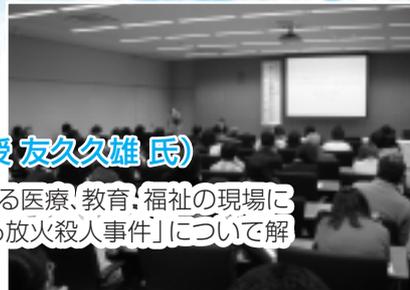
龍谷大学福祉フォーラムは10周年を迎えるに先立ち、昨年度から、より地域の人々、福祉現場で働く人々、社会福祉を学ぶ人々の思いに寄り添った企画に取り組んできています。

昨年12月に引き続き、第2弾として、3月10日(土)～11日(日)の2日間、「子どもたちをどう守るか ～今、私たちが考えなければならないこと、取り組まなければならないこと～」と題するプレ・フォーラム(定例開催となるオータム・フォーラムの前段階という意味)を開催しました。参加者は、2日間で100名。

## 1日目(3/10)

### 講演「子どもの悲鳴が聞こえる～子どもたちの今～」(龍谷大学文学部 教授 友久久雄氏)

心理相談、保育所への障がい児受け入れ、不登校児のキャンプなど、子どもをめぐる医療、教育、福祉の現場に深く関わってきた友久氏が、自らの体験を交えながら、「奈良・田原本の高校生による放火殺人事件」について解説。質疑応答も通して、子どもたちの「今」についての理解を深めあった。



### シンポジウム「子育て・子育てを支えるために ～現場からみえる子どもたちの『今』と『これから』～」

彦根子ども家庭相談センター 菅野道英 氏からは、「育ちの赤信号」としての問題行動を捉える視点や虐待事例への対応策の問題点などを、児童養護施設つばさ園 石塚かおる 氏からは、とにかく“子どもたちと話し合う”という援助者側の姿勢について、さらにCAP滋賀 久保宏子 氏からは、子どもの持つ力を信じることや地域のおとなができることなどについて投げかけがあった。コーディネーターは、龍谷大学社会学部 准教授 山田谷 氏。

## 2日目(3/11)

### 専門職向けワークショップを行いました! 「家族と子ども—その理解と支援」



中島弘美氏 (CONカウンセリングオフィス中島)

### 龍谷大学の地元大津市での活動から学びました! 「地域での子どもの安全・見守り活動」



(※写真右側より)

井上源太郎氏 (大津市瀬田東学区社会福祉協議会)  
大西幸子氏 (大津市瀬田東学区子ども安全リーダー)  
山根正典氏 (大津市衣川台オアシス)  
増田泰男氏 (大津市衣川台こども野菜クラブ)

### 行政とNPOの取り組みから学びました! 「地域における子育て支援の取り組み」



(※写真右側より)

西田久美子氏 (大津市子育て総合支援センターゆめっこ)  
伊藤幸枝氏 (NPO法人子育てサポートおうみはちまんすくすく)

### 専門家からしっかり学びました! 「子どもの発達を学ぶ」



中村隆一氏  
(立命館大学・大津市知的障害者地域生活支援センター)

### ●会員専用メーリングリストが出来ました!

会員様同士や会員様と本学教員とのコミュニケーションの場として、専用メーリングリストを開設いたしました。メールアドレスをお持ちの会員様は、事務局までメールアドレスをお知らせください。

お問い合わせ

### 龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5  
TEL/077-543-7744 FAX/077-543-7771  
E-mail/rec@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp  
ホームページ/http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/

